



また、シンポジウムのコーナーではいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！

また、シンポジウムのコーナーではいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！

また、シンポジウムのコーナーではいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！

また、シンポジウムのコーナーではいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！

また、シンポジウムのコーナーではいなかとまちが繋がった！これだけのいなかとまちが繋がった！

また、シンポジウムのコーナーではいなかとまちが繋がった！



(左上) 洲崎燈子さん (左下) 林直人さん (右上) 戸田友介さん (右下) 田中徳さん

11月20日(日)、豊田市駅前にて「F A C E シティプラザ」で「第5回いなかとまちの文化祭」が開催されました。都市部に暮らす方々に農山村の魅力や文化に触れてもらい、交流しようというイベントです。もともとは、持続可能な社会やライフスタイルを目指す「農山村へのシフト」というシンポジウムが始まりで、2013年からは「いなかとまちの文化祭」として実行委員会により豊田市駅前で開催されています。

# 農山村の魅力や文化をアピール

第5回いなかとまちの文化祭

### こんにちは！ 私があなただけの 中山間地在住職員です！



豊田市は、中山間地で暮らしながら市職員として支所で働く制度を導入しています。旭、足助、稲武、小原、下山の支所で働く中山間地在住職員6人を毎回ご紹介します。

#### 第3回 足助支所

### 日野泰樹さん

(ひの やすき)



前職は飲食業で、社員食堂や病院給食、学校給食を受託運営する会社で営業をしており、東海3県と北陸を飛びまわっていました。5年前に冷田で行われていた二戸二戸活動に参加したことがきっかけで、3年前から冷田に移住し生活しています。

今では地域の一員として、冷田フェスタで二戸二戸メンバーとやきそばやフランクフルトなど出店し、新たな風を吹き込んで地域を盛り上げています。また、日々の生活において、少子高齢化や過疎化を目の当たりにしていますが、その問題を地域に在住している目線から解決したいという思いから、市の職員に応募したので、行動に移し期待に応えられるように頑張ります！

#### プロフィール

東京都小平市出身。35歳。妻と子供1人。趣味は、バレーボール、アウトドア。自宅の庭にピザ釜を作って休みの日は、ピザとビールでエンジョイライフ。正月は、母校は予選敗退したが箱根駅伝観戦に箱根へGOの予定。

かつてどの国も経験したことのないこの人口ピラミッドを活かすことができれば山村のミライも、ひいては国のミライ、人類のミライも明るいものになる。仲間入りする日が待ち遠しいのは私だけだろうか。

## イベント情報

### 平成28年度いなかとまちのくるま座ミーティング

今年度は、テーマを「いなかをいならしく磨き上げる」とし、足助交流館で開催します。基調講演には、地域で丁寧に暮らすことを大事にしてながらアパレルブランド群言堂を運営し、地域おこしの立役者として注目の松場登美さんをお迎えします。

- 日時：2017年2月5日(日) 10:00~17:00 (受付開始9:30)
- 場所：足助交流館(豊田市足助町蔵ノ前16)
- 定員：基調講演200名 くるま座談義(3分科会)各30名
- 対象：どなたでも
- 参加費：無料
- プログラム：
  - 【第1部】●10:00~開会あいさつ、趣旨説明
  - 10:10~基調講演『足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ』松場登美さん(石見銀山生活文化研究所代表取締役所長)
  - 11:30~12:00 会場の皆さんと松葉さんのクロストーク
  - 【第2部】●13:00~15:50くるま座談義
  - ◆分科会①移住・定住専門部会『空き家にあかりを！プロジェクト』
  - ◆分科会②地域スモールビジネス研究会『女性の新しい働き方が地域を変える』
  - ◆分科会③森林部会『森の恵みを受けながら、山里をよみがえらせよう！』
  - 16:00~16:45まどめの全体会
  - 【第3部】●17:00~意見交換会【交流会】会場：参州楼 参加費：4000円程度
  - 申込：チラシ裏面申込票に記入してFAX、もしくは次項目をメール(連絡先は下記参照) ①氏名(フリガナ) ②第1部、2部、3部のどれに参加希望か ③第2部に参加の場合、希望の分科会 ④電話番号 ⑤E-mail ⑥住所の所属(団体・会社等)
  - 主催・問合せ：おいでん・さんそんセンター TEL.0565-62-0610 FAX.0565-62-0614 E-mail:sanson-center@city.toyota.aichi.jp



基調講演講師  
**松場登美さん**  
地域アドバイザー、観光カリスマ百選、文化審議委員に選ばれるなど、町おこしの立役者としても注目を浴びる。「カンブリア宮殿」などテレビ番組にも出演。

その他の情報は、センターHPをチェック！

センター長のミライのフツリーに向かって！

センター長 鈴木辰吉

#### 超高齢社会と山村のミライ

12月1日現在の豊田市の人口は、4,244,474人、65歳以上の人口は93,235人で高齢化率は22%に達した。超高齢社会である。豊田市人口ビジョンでは、現状の出生率で推移した場合、2040年には132,627人、32%にまで上昇すると推計している。そして、高齢者の増加は、医療、福祉予算の増加をもたらすネガティブな要因として社会に歓迎されていない。まもなく仲間入りする自分としてはどうもシツクリこない。



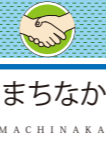
70名以上の参加があり、関心の高さがうかがえた

12月4日(日)、おいでん・さんそんセンター次世代育成部会主催の講演会『大人の都合と子どもの人権』小さくてもひとりの人間だから』を開催しました。

講師に豊田市子ども人権擁護委員の間宮静香弁護士を迎えて、一般参加者48名、次世代育成部会のスタッフ14名、中学生・小学生も加えると70人以上の人が集まりました。

豊田市には「豊田市子ども条例」という条例があります。間宮弁護士は少年事件を主に担当されていて、これまで厳しい環境で育ってきた少年たちと多数関わってこ

### 子どもの人権に関する講演会開催



まちなか MACHINAKA



小黒敦子

られました。居場所のない子どものシェアターの運営もされています。ご経験の中から、いくつかのケースを紹介していただきました。性的虐待、ネグレクト、親からの暴力など、それぞれ悲惨な育ちをしながらも、親と共に暮らすことを望む子ども達。その中で何が一番良い支援なのか、頭を悩ませ、時には涙を流しながらサポートする大人たちの話がありました。

愛された経験のある子どもは、愛のない状況になると反発して暴れるが、本当は幸せになりたいと思っている。だから自分でちゃんと戻ってこられる。でも愛された経験がない子どもは、不幸な状況が辛いと思えない。こちらの方がとても深刻だ、という話が印象に残りました。

2部では少人数のグループになり「自分には何ができるか」を頭に置きながら、話し合いをしました。誰かの問題ではなく「自分」の問題として、話が進んだようです。講演が終わってから参加者が間宮さんを呼び止める姿がたくさんあり、とても貴重な機会となりました。(文/小黒敦子)



11月12日(土)、萩野子供歌舞伎30周年記念事業実行委員会主催、萩野小学校の児童14人による子ども歌舞伎が、ふれあいセンター萩野で上演されました。

昭和62年に小学校区にある怒田沢町の農村舞台「寶楽座」の改修に伴い、「萩野子供歌舞伎クラブ」が小学校に発足。この年の怒田沢歌舞伎に出演して以来30年間に渡り、萩野小学校学芸会や愛知万博ナショナルデー、豊田市能楽堂10周年記念事業、全国各地芝居サミットinとよた等に出演・参加されています。

親子二代に渡って同じ役を演じる子どももあり、小さい頃から歌舞伎に親しんでいる「6年生になったらあの役をやりたい」と楽しみにするそうです。

大きな声でセリフを話し、振り付けを覚

### 萩野小学校子ども歌舞伎の存続を



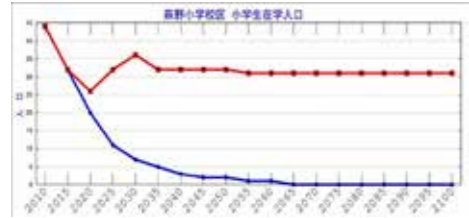
足助 ASUKE



え、役を演じる事で子ども達の成長につながります。教える地元の人達と親しくふれ合い、伝統芸能を通じて子ども達の地域に対する愛着が育ちます。

発足当時は6年生のみだったのが、児童数の減少により平成16年からは5、6年生、今年からは4、6年生で演じています。萩野小学校の在学生人口の推移予測では、現在の29名が10年後には1/3の10名になってしまいます(※グラフの青線)。しかし、年間2世帯の子育て世代の移住者を受け入れる事ができれば、現在の児童数水準の30人を安定的に維持できる推計が出ています。(※グラフの赤線)。

伝統芸能が存続し、子ども達が元気に歌舞伎を演じる事ができるように、センターも応援した



いのはな農園の新鮮な野菜

「流域内フェアトレード」という言葉も出てきました。豊田市内、ひいては矢作川流域の中で、いなかとまちの人や物やお金ももつと交流して、いなかもまちももつと魅力的で、持続可能な地域になるように。この文化祭もそのきっかけの場として開催されています。「いなかでもまちでも楽しく、気持ちよく仕事を。そうして楽しくつなげていけば、その中で物やお金も流れていくと思うんです」と戸田さん。最後は、「難しいことではなくて、近くでできた野菜を買うこと、新ストロープを使ってい



(左上) 子どもたちのパフォーマンス書道 (左下) 足助地区五反田の棒の手 (右) 出展者と交流の様子

るなら地域の薪を使うこと、ここで売っているような手作り品に出会うこと、それを作っている人と話したり交流すること。そういうことから始められると思います。こういった出会いがもつと増えて、豊田がもつと魅力的ないなかとまちの共存する市になつていってほしいなと思います」という洲崎さんの言葉で締めくくられました。(文/鈴木明日香)

### 「ふるさと旭が大好き」あさひ森の健診



旭 ASAHI



子ども森の健康診断がはじまる

12月17日(日)、旭地区敷島会館において「あさひ森の健康診断報告会」が開催され、小学生を含む80人余の参加者で熱気に包まれました。

あさひ森の健康診断は、矢作川流域で森林ボランティアや研究者などが中心に10年間にわたり調査が行われた「矢作川森の健康診断を引き継ぎ、地域住民が中心となつて、昨年から取り組まれている森の健康度調査。山主や地域住民の森づくりへの関心を高め、人工林の間伐推進による森の健全化を目的にしています。センターも趣旨に賛同し協力しています。

報告会では、矢作川研究所の洲崎燈子主任研究員から「矢作川流域全体の中で旭地区の人工林は、間伐先進地と言える



敷島小学校の発表

価がなされました。

今年の報告会の特色は、小渡小学校五年生と敷島小学校六年生が、廃校となった築羽小学校の学校林を活用して「子ども森の健康診断・間伐体験」に初めて取り組み、成果発表が行われたことです。

小学生の発表では、森の健康状態が悪かったこと、間伐が大変だったことなどのまとめとして、「ふるさと旭が大好きだから、未来のために森を健康にしよう。」と締めくくりました。子どもたちのメッセージに感動しました。(文/鈴木辰吉)